

-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----☆-----

ここに来る前にトラジャコーヒーでコーヒー飲んだんですが、マスクしているのを忘れてて、マスクにブワッ、コーヒーかかって臭くてたまらん。ということで、マウスカバーでやらせていただきたいと思います。

今日のテーマは“2021年の国際情勢”、特に“アメリカ大統領選挙の行方”ということで、一緒に考えたいと思います。

選挙があったのは11月3日。既に約3週間経ってますが、いいですか、未だに大統領が決まっていない。マスコミでは「バイデンだ!」と、その方向で話が進んでいるけれど、正式に決まっています。正式に判明するのは12月14日です。長引きますね。揉めますね。だから後味悪いですね。

私は日本の国益を考えたら、何としてもトランプ大統領に再選していただきたいと思っていました。

だから今日も、ネクタイは共和党の赤なんです。ブルーはしないぞと。

そういう風に個人のYouTubeチャンネルなどでやると、時々トランプ大統領大嫌いの方がおられて、「なんで、トランプみたいなのを応援するんや。アンタがトランプのことを話している時、人相悪くなったな」とか、「トランプに洗脳されている情ない人たち」みたいに言われることもあります。

確かに批判する方々は「トランプはあんなことやった・こんなこともやった・あんなこともあった。」

だけど、どんなに立派な人間であったとしても、誕生から死に至るまでの一生の全ての日々において、全生涯で立派だった人っていますか?どんなに高潔に見える人でも、「なんだかなあ」と思う時期があったんじゃないですかね。私だって山あり谷あり、谷あり谷あり、谷ばっかりみたいな。

行き詰っている時は「なんだかなあ。残念だなあ」のような発言をすることもあるんじゃないですか?だから、長年付き合い合っている人が「それ、言っちゃいかんぞ」というようなことを言ったとしても、長い目で見る必要がありますよね。

というのは、自分自身も長い目で見ていただいているので、今まで友情関係が続いているわけです。

トランプという人は7回破産しているんです。7回自分の会社潰しただけではなく、7回破産している。そして2回離婚している。それに、離れて行った側近や、疎遠になっている身内が書いたトランプの伝記を見るとムチャクチャや。「よう生きてるな」みたいなことが書いてある。

しかし、トランプ大統領が4年間にやったことを、人々の伝聞ではなく、政治家は結果が全てなんだから、やったことで判断するならば、私は偉大な大統領だと思いますよ。

ゴッホは800枚以上作品を描きましたが、生きていた間は評価されず、亡くなった後で「すごい絵じゃないか」となって、どこに行っても引っぱりだこ。買おうと思っても手が出ない。

時代の中にいるがゆえに、近すぎるゆえに、彼がやっていることが正当に評価されないということもあるんじゃないか。はっきり言って、この数年来のアメリカ歴代大統領の中で、アメリカを最も元気にした大統領だと思いますよ。

渡瀬裕哉(わたせ ゆうや/1981-)さんという政治アナリストをご存知ですか?

彼が早稲田大学大学院の時、そのまんま東/本名は東国原英夫（ひがしこくばる ひでお/1957-）さんが宮崎県知事に立候補して当選しました。マニフェストが良かったからですよ。そのマニフェストを作ったのが渡瀬裕哉さんです。

彼は『税金下げろ、規制をなくせ』という本を書いています。「増税いらん！規制やめろ！」その本にはトランプ大統領がやった良いこと、「殆どマスコミには載らないけど、実はこんなことをやっているんですよ」ということが色々書いてあります。

その1つ。トランプ大統領は就任早々“2対1ルール”を作りました。アメリカの各省庁の役人・官僚たちに「どうしても規制を1つこしらえたいなら、いらなくなった規制を必ず2つ廃止せよ」というルールです。

役人・官僚というのは規制ルールを作るのが好き。なぜなら自分がルールを決めたら、そのルールを実現するための関連法案について、政治家はよく分からないから自分が重宝されるんですね。官僚としての有能さはどこで分かるかというと、どれだけの規制を作ったかです。その実績によって出世できるし、そこから天下るときには良いポジションが待っていますから。

官僚は規制を作るのが好き。規制を潰すのは嫌い。先輩の顔を潰すことになるから。怖くて出来ない。だから、規制は放っておくとドンドン増えていくのですが、トランプ大統領は「どうしても新しい規制が必要で作りたいのなら、もういらなくなった規制あるやろ！知ってるやろ！白状せい！それ潰せ！」

この本が書かれたのは4年経ってない時です。トランプ政権では3年間に、官僚が1つの規制を作ったら8つの規制が取り外されているんです。つまり、トランプ大統領の時代、新しいビジネスが非常にやりやすくなっているんですよ。

減税だって、アメリカ史上最大ですよ。アメリカで大減税をやった有名人はレーガン大統領(1911-2004)。レーガン大統領は人気者です。今から16年前に彼が亡くなった時、私アメリカのカンザス州にいてたんです。ある朝起きてちょっと散歩すると、もう家という家・町という町・走っている車という車が全部、星条旗/アメリカ国旗をバーっと付けてる。

「今日、祝日やったかな？何の日？何があったんですか？」とホストファミリーに聞いたら、「レーガン大統領が亡くなった。それで、皆悲しみの気持ちを表すために国旗を掲げているんだ。」

このあいだ、中曽根さんが亡くなったじゃないですか。「知らんわ〜」言うて。

「アメリカでは大統領が亡くなったら、そないするんですか？」「いや、レーガン以外に知らない」と言っていました。すごい人気。

レーガン大統領は大減税・大軍拡。その減税は法人税46%を34%に12%もガーン！タックスカット。トランプ大統領は35%を21%に14%切ってるんです。これはアメリカ史上最大ですよ。

その結果、アメリカ史上最も失業率が低いんです。3.5%。

黒人の失業率、史上最低。アジア人の失業率、史上最低。ヒスパニックの失業率、史上最低。

女性の失業率、史上最低。アメリカの失業率3.5%いうたら、ムチャクチャすごいことです。

世の中には「どんなことがあっても働かない！」と決めている方々がいるんです。働こうと思えば働けるんだけど、「俺は働かない！」という哲学を持って働かない方がおられるんですね。

「失業率0%じゃないんかい？」0%はあり得ません。

3.5%というのは、働く気持ちさえあるなら、ほぼほぼ全員が就職出来る・何らかの仕事に就くことが出来るという数字ですが、それを実現したのがトランプ大統領。

そして、彼は大統領職で給料もらってない。アメリカ大統領の年収は40万ドル（4千数百万円）。彼は「要らない。」だって、個人財産3千2百億円くらいある。お金に困ってないんです。法律上の規制があるから、毎年1ドルだけもらっています。4年間骨身を削るような、あの大統領の仕事をして4ドル（450円）。コンビニのバイトの時給より安いよ。金のためにやってるんじゃない。

私は日本人で選挙権ないから、「よその国の選挙に対して、そんなに熱くなる必要はないやないか」って。せやけどね、なりますよ。日本の将来考えたら。

この4年間トランプ大統領がやってくれたことを考えると、アメリカ人だけでなく同盟国である日本にとっても、すごく大きな国益になった。

大軍拡をやったわけですよ。アメリカの国防予算80兆円ですよ。日本の1年分の国家予算にほぼほぼ近い。80兆円で大軍拡をやったけど、「アメリカファーストで、世界中の面倒見るために俺たちはいるんじゃないやねえ！」と言いながら、なんで大軍拡やったのか？

アメリカのメーカーの工場は海外にたくさん移転しましたが、軍事工場は機密の問題があるのでアメリカ国内に留まっています。アメリカの軍事工場には下請け・孫請け・ひ孫請けがあり、ひ孫請けにも下請け・孫請けがある。経済効果がすごかった。

そしてNATOに対しては、「29の国がアメリカにばかり負担させているのは不公平だ！せめて、GDP2%の軍事費出せや！」。7つの国しか従ってない。でも、無理やり軍事費上げたら新しい武器を買う。世界最大の武器メーカーの国はどこか？アメリカですよ。経済雇用にもプラスになる。

何よりもトランプ大統領がやったこと、彼は最初からハッキリ言っていました、「我々は世界中の戦争に突っ込むつもりはない。しかし、まずやらなければならないのはイスラム国の討伐だ。」

かつてイラクとシリアにまたがる所に、イスラム国というイスラム原理主義者のテロリスト集団がいたじゃないですか。日本人もやられましたね。そのトップがバグダディ（1971-2019）。もちろん偽名です。バグダディは“バクダッドの人”という意味。“大阪人・京都人・東京人”と一緒にや。

このバグダディを、蛇の頭を潰せということで、8機のヘリコプターで特殊部隊を遣わして討った。イスラム国の思想は残っていて、今でも色んな所でテロがありますが、実質的な支配面積・領土を持つイスラム国は一応消えたんです。

これをやり遂げることで、いよいよ本丸、トランプ大統領が1番やろうとしていたことが中国封じ込め。それに向かって行ったんです。トランプ大統領の中国封じ込めというのは、思いつきでやっているんじゃない。彼が大統領候補だった時に公約で掲げていました。

トランプ大統領の参謀に、竹中半兵衛みたいな感じでピーター・ナヴァロ（1949-）という人がいます。彼の『米中もし戦わば』という中国の地政学について語っている本は、日本語に翻訳されて防衛大学の教科書になっています。これ、一般の本屋で売ってる。

中国に投資したり、中国の物を買うということは、中国共産党というモンスターに餌を投げ与えるようなもんなんだぞ！と中国に睨みを利かせて行く。

そういうことで、いよいよ2期目、総仕上げに行くところで、アメリカ大統領選挙があったんですね。上院・下院の議員数を見ると、共和党がぐんと伸ばして民主党が減ってるんです。トランプ大統領の政策は支持しているが、トランプ自身は嫌という人たちが根強くいたということですね。

まだ決まってませんよ！決まってないけど、正直言って、かなりバイデン優勢。かなりバイデン優勢です。しかし、最終的に決まるのは今ではありません。トランプ大統領が敗北宣言しないからです。日本では「往生際悪いぞ。負け認めろや。いつまでも地位に恋々として。負けは負けとして、現実を認めろよ！」みたいな論調がありますが、いや、言い分がある。

例えば、不正な手段で1等賞を取った競技者に、「ドーピング検査を受けろよ」と言うのは不正なことではないと思う。往生際が悪いことではないと思うんですよ。「オリンピックの選手に『1位になったんだからドーピング検査受けろ』と言うことは、失礼だから言うべきじゃない。」そんなことない。疑わしい者に検査を要求するのは当たり前前で、それをしないことの方が不正だと思いますよ。

アメリカの今回の選挙は、史上最も不正が横行したんじゃないかと言われています。私のところに、もう毎日「こんな不正があったんです！」「こんな不正もあったんです！」「こんな不正が！」メールが来る。アメリカに住んでいる友人から。メール来るんですが、その殆どはトランプ支持派で、その情報ばかり聞いていると「う～ん」と傾いて行くんですね。だけど、私個人として確かめようがない。それがフェイクなのかファクトなのか、よく分からない。

「不正だ！」と言うなら、その不正の問題を裁判所に訴えて、裁判官/判事たちを納得させて、不正選挙だという判決を取る必要があるんですね。今色々裁判していて「負けてる、負けてる」と言ってますが、あの“負けてる裁判”は民間人が勝手に起こしている裁判で、トランプ大統領の法律顧問団がやっている裁判ではないんです。

ジュリアーニをはじめ「不正の証拠は山ほどある！」と言ってるけど、なんぼ「不正の証拠がある」と本人たちが主張していても、それを裁判に持って行って立証しないとダメです。もし立証されて、例えば、ペンシルベニア州の選挙は不正選挙だったと裁判所が認めたらどうなるか？ペンシルベニア州の選挙人の数がバイデン0票・トランプ0票。結局無効になります。

アメリカ大統領選挙は選挙人を総取りで取って行く選挙です。選挙人は全部で538人。過半数が270人。270人以上の選挙人を取った方が大統領になるんです。あっちの州で無効選挙、こっちの州で無効選挙、そっちの州でも無効選挙になって行ったら、両方とも270に届かない可能性があります。

両方とも270に届かないことがはっきりしたら、今度は下院で大統領が決まる。一州1票。下院は共和党が優勢なので、トランプ大統領が再選する可能性が高くなるんです。これは12月14日に選挙人の投票があるので、その時にならないと分からない。まだ長引くということで、今決まったわけではない。決まったわけではないけれど、バイデンかなり優勢になっていることは間違いないですね。

さて、私はこの講演会で、3つのポイントでメッセージさせていただきたいと思っています。

1) 今アメリカで起こっている権力闘争について。

この実態を知ったら、「アメリカって自由の国じゃないの?」「えっ?!」というようなことですよ。

2) 中国で権力闘争が起こっている。

世界に決定的な影響を与える米中2つの大国内部で権力闘争が起こっている。

3) トランプ大統領が実現したことが、聖書預言の成就に密接に絡んでいる。

1) アメリカ国内の権力闘争

2) 中国国内の権力闘争

3) トランプ大統領がした遺産によって聖書預言の成就が近づいた

1) アメリカ国内の権力闘争

民主党大統領候補バイデンさん、まだ決まったわけではないけれど、限りなくその可能性が近づいたと言われている人物。長男さんは亡くなりました。

次男はハンター・バイデン (1970-)。彼にはスキャンダルの問題があるんです。

前々から黒い噂があって、ちょっと心が弱いというか、自分の鬱々した気持ちを薬物で引っ張り上げようとしたんでしょう。コカイン依存症です。

色々な薬物があるけど、コカインを使うと疲労感が吹き飛んで、眠気も吹き飛んで、ちょっとした全能感に満たされて、薬物の力を使って簡単に爽快な気分になって。

コカインは覚醒剤とよく似た症状というか、効果があるけど持続時間が短い。だから、それを長く味わいたいと思ったら、またすぐに手を出して、乱用する習慣的なものに発展してしまいやすいですね。

ハンター・バイデンは海軍にいたのですが、その予備役の時、コカイン依存症で軍隊内にコカインを持ち込んで発覚。「規律の軍隊の中にコカイン持ち込んだのか!」ということで除隊命令、クビですよ。

非常に不遇な青年だったわけです。

しかし、お父さんのバイデンは政治活動で着実にキャリアを積んで、41歳でデラウェア州の上院議員になり36年間務めました。約40年間デラウェア州の顔になる。上院だから中央政界にも顔が利く。

そして、デラウェア州の中で「どうしても政治力を使ってもらわないと解決しないけど、解決したらすごくビッグなビジネスができるぜ!」みたいに思っている企業は、何とかしてバイデンに近づいて、その政治力を使って欲しいと思うようになるんですね。

では、どうやってバイデンに近づいたらいいのか?

そこで現れるのがハンター・バイデン。ブローカーをやったんです。お父さんと大企業を結び付けるための口利き。「どうしたらお父さんに、上院議員にお会いできるだろうか?」「じゃあ、僕が話し付けましょうか?」成立したら無報酬ということはないですよ。ブローカーだから出来高払いです。

成立したらキックバックがありますよね。

そんな政治ブローカーとしてデラウェア州で活動していたのですが、このお父さんが上院議員からオバマ大統領の副大統領に出世した。世界で最も強力な国の政治家のナンバー2になったんですね。

そうすると、この政治ブローカーのスケールが、州だけではなく海外にまで発展して行って、彼はそこで様々な口利きでぼろ儲けをするようになりました。

今1番言われているのはウクライナ疑惑と中国疑惑。

## ◎ウクライナ疑惑

2014年、ハンター・バイデンはお父さんのバイデン副大統領にくっついてウクライナに行きました。ウクライナはロシアの西側で、簡単に言うと、ジャイアの隣のび太が住んでるようなものです。ジャイアはロシア。ロシアの隣がウクライナ。ロシアは元々キエフ公国から始まりますが、キエフとはウクライナですよ。

ウクライナ語もロシア語も、大阪弁と東京弁の違いくらいしかありません。同じスラブ民族。ウクライナは真ん中にドニエプル川が流れていて、ロシアに近い東側にはロシア系住民が、ヨーロッパに近い西側にはウクライナ人が住んでいます。両方共ウクライナ人ですが、この2つはいつも対立しています。ウクライナはずっとロシアにいじめられ続けて来たので、内心ロシアから離れてEUに入り、NATOに加盟してヨーロッパの一員になりたい。

ヨーロッパに行きたい・反ロシア・親EUの大統領がポロシェンコ（1965- /任期2014-2019）。彼が大統領の時、バイデン親子がウクライナを公式訪問しました。そして、ウクライナ最大の天然ガス企業ブリスマの重役・取締役、いきなりハンター・バイデンが就任したんです。それまでハンター・バイデンは、エネルギー企業に就職したことは1回もありません。エネルギー企業の仕事をしたことが1回もないから、エネルギーのことを聞かれてもチンプンカンプン。何も分からない。ロシア語もウクライナ語も出来ない。にも拘らず、近畿でいうなら大阪ガスみたいな、天然ガス最大企業ブリスマの重役。月給550万円を毎月もらう。何の仕事もしてないけど取締役。

このブリスマが汚職したんです。天然ガスで儲けたお金をアングラマネーと混ぜ合わせながら、マネーロンダリングでキプロス島に送ろうとしたのですが、これが発覚して、ショーキン検事総長自らが捜査の第一線に立ち、「この不正を暴くぞ！」とブリスマに捜査が入りました。が、その時、ブリスマが取締役ハンター・バイデンを通して「アメリカの圧力で、この捜査をやめさせてくれませんか？」とバイデン副大統領に頼んだんです。これ、電話1本ですよ。

バイデン副大統領はポロシェンコに「ショーキン検事総長をクビにしろ！もし、そうしないなら…」実は10億ドルの援助がウクライナに行くはずでした。隣のロシアは親ヨーロッパのポロシェンコが大嫌いなので、ウクライナはアメリカに見捨てられると絶対的に困るんですよ。「分かりました。」彼をクビにして、ブリスマのお金は無事にキプロス島に振り込まれたので闇の中です。

つまり、外国の1つの企業が汚職した時、その揉み消しのためにアメリカの副大統領が権力を使う。そんなことがあっていいんですか?!という疑惑なんです。これはまだ疑惑です。

## ◎中国疑惑：もっと酷いのが中国の方。

ハンター・バイデンはローズモント・セネカ・パートナーズという投資会社を作っています。この投資会社はひと言で言うと、中国の大企業・ハイテク企業に莫大なドル投資をする専門の投資会社。そのトップがハンター・バイデン。

投資した企業はAVIC/エイヴィックというドローンの会社。このあいだ、アゼルバイジャンとアルメニアが戦って、アルメニアが絶対勝つと言われていたのにボコボコに負けたのは、イスラエル製の自爆ドローンで手も足も出なくなったからです。

ローズモント・セネカ・パートナーズが、ドローンを作っている会社に莫大なお金、億ドルという投資をしました。投資するだけではなく、AVICC とローズモントが共同で、アメリカ企業のヘネガスという部品メーカーを買収します。ヘネガスはドローンを作るのに必要な部品を作っていて、軍事にも民事にも使える高性能の部品を作っている会社です。それを買収しました。

しかし、民事にも軍事にも使えるような企業を外国企業が買収する時は大統領の許可がいるんです。これをデュアルユースといいます。この時の大統領はオバマ。彼は許可を与えました。それで、ヘネガスは AVICC の子会社になり、この後、AVICC のドローンがものすごく性能アップしたと言われています。

副大統領はアメリカを守るためのポストでしょ。そのポストに就いているお父さんの名前を使いながら、中国の利益になるように動いて、そして莫大な利益を得て行くというのは、どういうことですか、これ？

もう1つ。MEGVII/メグヴィーという会社。

ローズモント投資会社は中国銀行の出資で、渤海華美（ぼっかいがび）という合併会社を作りました。渤海“華美”の華は中華の華。アメリカは中国語で書くと美国。中国とアメリカの合併投資会社。そして MGVII に投資しました。MEGVII は顔認識ソフトの会社です。

今、中国人口は 14 億 3 千万人と言われています。「14 億もおつたら、人間の認識なんかでけへんから、紛れ込んだら分からへんわ。」分かるんです、それが。

以前ここに来られた方が「中国にいた時、こんなことがありましたよ。」

横断歩道で信号を守らないで無視したら、向かい側の信号の電光掲示板に、その人の住所氏名がザーッと出て来る。なんで、そんなん分かるん？顔認識。

イギリスの BBC が（彼らは駐在しているから登録されている）、「顔認識とか、そんなので捕まるか？」自分がどれくらい登録されているか 1 度試してみようと、中国のパン屋さんで、わざと安いパンを万引きして逃げたんです。7 分後に捕まったそうです。ホンマに登録されてるんやと。

皆さんも頻繁に行かれた方は、もう遅いと思いますよ。

町中に監視カメラが付きまくっていて、顔見ただけで誰なのか、すぐに割り出せるようになっています。その認識ソフトを作っているのが MRGVII で、そこに投資しているのがハンター・バイデンの会社だと。

今中国でチベットの人たち・内モンゴルの人たち・ウイグル人たちが監視下に置かれて、特にウイグルの人たちは強制収容所に放り込まれて、とんでもない目に遭っています。それをバックアップするような企業に資金を投じて、その株式の 10%を持っていると言われている。それが副大統領の息子。

これは疑惑なんです。疑惑だから、まだ証明されたわけではない。だけど、その動かぬ証拠が大統領選挙の前にブワーツ出たんですね。10 月 14 日。ニューヨーク・ポストという新聞。

ニューヨーク・タイムズではありません。ニューヨーク・タイムズは高級紙。皆さんが読んでいる朝刊は 30 ページくらいでしょ。ニューヨーク・タイムズは 140 ページくらいあるんでしょ。

ニューヨーク・ポストはどちらかといえば大阪新聞・大阪スポーツ・夕刊フジみたいな感じの新聞で、赤とか黄色・黒のでっかい活字で“〇〇が不倫した！”みたいな新聞。

そんな新聞ですが、ハンター・バイデンの大スキャンダルをすっぱ抜くんです。どうしたのか？



実は、ハンター・バイデンが持っていたノートパソコンが、3台とも水に浸かってしまったんですね。「貴重な情報があるからなんとか修理して欲しい」と修理工房に持って行ったけど、3台のうち2台はどうしようもなく、1台だけ修理できた。しかし、修理完了しているのに、いつまで経っても取りに来ない。そのパソコンには“バイデン財団”というラベルが貼ってあって、デラウェアでバイデン財団といえば、あのバイデンさんだなど。でも取りに来ない。連絡も取れない。なんとかして…ということで、復元したデータを見てみた。

そしたらなんと、ウクライナでやり取りしていた膨大なメール・聞いてはならない発言の音声・更に動画が入っていた。だけでなく、中国内で様々な闇の取引について、決定的な論証となるようなメール・音声・動画があった。しかも動画の中には、14歳くらいの女の子と性交渉をしているのもあるんです。コカインを吸引しているのもある。

それを知った時、修理工房の人は怖くなったんですね。それでFBIに「こんなものがあるんです！」と渡そうとするんですが、FBIはなんとなく迷惑そう。パソコンを受け取ろうとしない。その様子から、「このまま放っていたら、もしかしたらヤバイ事件に巻き込まれるかもしれない。」それで、中身のデータを4つコピーしました。そして、誰にも言わずに秘密にしていたら殺されるかもしれないから、自分が消されないように全部明らかにしようと4つのコピーを送ったんです。そのうちの1人がジュリアーニです。トランプ大統領の法律顧問。ジュリアーニ経由でニューヨーク・ポストに行ったのではないかとされています。

これは衝撃的な内容で、アメリカ大統領選挙の2週間以上前にバンと出たんですが、アメリカの大手メディアは一切報道しなかった。あまりにも報道されないので、フェイスブックとツイッターで「こんなことが明らかになった！」と拡散しようとしたら両方とも凍結。アカウント凍結ですよ。

なぜ報道しないのか？報道しない自由があると言ってるんです。でも、疑惑があるなら、その真相を解明するためにハッスルするのがジャーナリズムじゃないですか？もっと言うと、もしこのスキャンダルがバイデン側でなくトランプ側なら、朝昼晩・朝昼晩やりまくるんじゃないですか？言わないんですねえ。

なんとしてもトランプに当選して欲しくない様々な理由があるように思います。これが、今アメリカの国内で起こっていることで、それに対して怒りがあるんですね。それで裁判に訴えようとしています。

## 2) 中国国内の権力闘争

中国では5年に1回、共産党大会が開かれます。3千人近い共産党員が集まって大々的に行われる。そして、次の共産党大会の間の5年間に7回の総会を開きます。その5番目の総会を、中国における5番目の総会なので“五中総会”と言います。五中総会の2年後に共産党大会があって、その大会で次の指導者が明らかにされるんです。

この五中総会は、2年後の共産党大会でどんな人事になるのかが発表される総会なので、例えば鄧小平(トウ ショウヘイ/1904-1997)が引退することを発表したのも五中総会です。ところが、先月10月26日頃から30日くらい、10月末に五中総会がありましたが、2つのこと…



① 人事に関する発表が全くない：今決めておかないと、2年後のことが見えないんですね。  
しかし、人事の発表が全くないという不思議な総会だった。

② 2035年までに中国がやるべきことの決定

普通中国は5か年計画をやるんです。この時も5か年計画は決まっていますが、それとは別に15か年計画（2035年まで）が決まったんですね。

習近平（シュウ キンペイ/1953-）は2018年に国家主席の任期撤廃に成功しました。

中国の国家主席は1期5年で2期まで務めることが出来るのですが、それを取り外すことが出来た。

彼は死ぬまでやりたい。ずーっと国家主席でいたい。

そのために、まず2018年に引退の制限を取り外したけど、それだけでは駄目です。

皆に文句を言わせないように、自分の息のかかった子分を、中国共産党内部の中心で重要ポストに置いておくことが絶対に必要なんですが、それが無い。

しかし、2035年までにやるべきことを声明文で出すことには成功しました。

習近平は今67歳。15年足すと82歳。82歳って、毛沢東（モウ タクトウ/1893-1976）が死んだ歳ですよ。

つまり「俺は21世紀の毛沢東になる」ということ。それまではやめない。

しかしそのためには、人事で自分の息のかかった連中を重要ポストに上げないと駄目なのに、それが出来なかったということは、今中国国内で権力闘争です。どんな権力闘争か？

習近平の強力な武器であった王岐山（オウ キザン/1948-）、彼は習近平がやった腐敗撲滅運動で、実際の取り締まりに大暴れした人。“泣く子も黙る王岐山”。

習近平は自分のライバルを失脚させるために、「お前、不正やってるだろう！汚職やってるだろう！」

共産党幹部で汚職やってない奴なんか絶対いてない。1番汚職やってるのはこの人（習近平）やん。

でも、難くせ付けて、庶民の喝采を浴びながらやっていった。

ところが、この五中総会で王岐山が習近平を批判してるんです。

「彼の外交政策・経済政策、彼がやっていることで、中国がすっかり孤立化している。」批判している。

えっ、あんなに仲良しだったのに、あんなに習近平のために働いていたのに、何があったの?!

今トランプ政権の経済政策が効いていて、中国にドルが入らないんですよ。一帯一路を進めていけない。

そこでどうしたかという、習近平は自分に反抗的な共産党幹部を逮捕して、私財を全部没収してるんですね。それをまた原資に使うんです。（王岐山は）ものすごい不満を持っていますね。

そして王岐山だけではなく、習近平 VS 反習近平のグループがある。そんな国内権力闘争。

そこで、先程のパソコンの中に入っていたデータですよ。このデータはおびただしいメールだけでなく、色んな音声データや動画のデータなんですけど、動画の中に、中国のホテルでコカインを吸引している動画があるんです。

これ、残しておきますかね？思い出の動画は残しておくけど、これが発覚したら自分の将来を棒に振る・将来がメチャクチャになるというような決定的な犯行現場や、人に見られるとヤバイ動画をわざわざ残しますかね？普通は急いで消すんじゃないですか？人に見られたら困る、自分が麻薬を吸引している姿を後で見て「面白い。あっはっは」って、そんな奴はおらんで。

こんなデータが残っているというのは、バイデンがそれを大切にしていたというよりも、何らかの方法で、このデータを送り込んだ可能性がありますね。では、誰が送り込んだのか？2つの説があります。

### ①ロシア説

ウクライナ疑惑については、中国は知らない情報がたくさんあるので、その情報が入っているということはロシアではないか？これを表に出せば、バイデンは選挙に負けてトランプが勝つ。

トランプは2期目には中国と思い切り戦おうとしている。

すなわち、アメリカの力がロシアではなく中国に向く。バイデンだとアメリカの力がロシアに向いて行くことがあるんです。でも、トランプはロシアよりも中国に向かって行く。だから、漁夫の利のためにそうしたんじゃないかという説。

### ②中国説

1番やばいコカインのデータなんかも入っている。中国が送り込んだのではないか？

その場合、誰が送ったかという反習近平のグループ。このデータを送って明らかになったなら、バイデンが倒れてトランプになるから、トランプに習近平を叩いてもらう。

もちろん分かりませんよ、これは。でも、そういう風に考えられないことも…ない。

これが本当かどうか別として、中国国内で習近平がアンチグループと壮絶な権力争いをしているのは間違いないことなんです。

このような様々な横やりに対して、習近平は一気に2年以内に共産党内部を掌握して、皆の口を黙らせる必要がありますね。そのためにはどうしたらいいか？毛沢東でも出来なかったことをすることです。

共産党の中で、中国の英雄は毛沢東と鄧小平です。

毛沢東は中国大陸を国民党から取り戻した。というか奪い取った。国民党を追い出すことに成功した。鄧小平は香港を一国二制度という条件で、イギリスから取り戻した。

習近平がこの2人の伝説的人物でも出来なかったことをやるとするなら台湾攻略ですよ。

しかし、現実的に台湾を習近平中国が取るということになると、アメリカと衝突する可能性が高い。

そうなれば中国軍が負ける可能性が高い。もし中国軍が大惨敗すると、中国共産党を支えている屋台骨が大惨敗したということで、ひいては中国国内の共産党の権威が揺らぎます。

なので、台湾本土をそのように取るというのは、現実的には低いと思うんです。

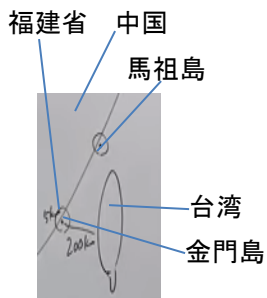
もしやるなら、事前にアメリカと話を付けて、「我々は台湾を取るけど、アメリカは黙っててくださいね」とアメリカを納得させることが出来る場合だけです。アメリカが台湾を中国に譲り渡してでも「うん」と言うような、他の利益となるものを中国は差し出すことが出来るか？そんなん無いですよ。

ということは、台湾本土を中国が軍事力で制圧するということは、リスクが大き過ぎて出来ません。

しかし、1つ問題がある。台湾の領土に2つ島があります。金門島（きんもんとう）と馬祖島（ばそとう）。金門島と台湾は200キロ離れています。中国大陸の福建省と金門島は5キロ。すぐ目と鼻の先。

台湾独立派の人たちも「金門島と馬祖島は台湾に含まれない」と言っている。

金門島と馬祖島を取られたとしても、アメリカのアジアにおける世界戦略は、致命的なダメージは受けません。



もう1つ重要なことは、1950年代に毛沢東は金門島を取ろうとして、台湾の軍隊に猛反撃をくらって退散したという歴史があるんです。  
ということは、金門島・馬祖島を取ることが出来たら、習近平は毛沢東を超えたと言えることが出来る。これによって、中国国内の権力闘争を自分に有利に、黙らせることができる可能性があります。

しかし、アメリカの国際戦略によって大きなダメージを得なかったとしても、小さな島を守ることが出来なかったとなると、南沙諸島の島々を持っている東南アジアや、尖閣を持っている日本はどう思うだろうか。アメリカとの条約に対して、非常に疑いの目を持つようになると思いますね。  
それは絶対にさせないという強気に出ている大統領。

それが、バイデンさんの場合どうなるか分からない。息子がズブズブでした。  
それに、疑惑がここの中に出ているもので全てなら、もうバレてしまったんだから、それはカードに使えないけど、それが氷山の一角であった場合どうなりますか？  
脅しの材料を中国がまだ握っているとなれば、金門島と馬祖島が取引材料に使われる可能性もないわけではない。そのことがすごく心配です。

だから日本は、それに対して自分で出来ることをしないとダメですよ。自分で出来ることとは何か？  
少なくとも、日本国憲法に“自衛隊は国軍である”と明記することやと思いますよ。

僕は平和憲法を守るべきやと思っています。これは絶対に守るべきです。  
国際紛争解決の手段として、国権発動して戦争することを放棄する。  
これは国連憲章にも書いてあることで、当然守るべきですよ。だけど、“自衛隊を国軍として規定しないで、あらゆる陸海空を廃棄します”って、そういうややこしいことが書いてあるから前に進まない。  
安倍政権は7年8か月政権に就いていて、憲法審査会を1回も開いてない。  
この話をするとうどんずれて行くので、これはまた別の機会にお話したいと思います。

アメリカ国内の権力闘争、中国国内の権力闘争、そして、中国に誤解させるような態度を取ることによって、中国はアメリカにダメージを与えない小さな島を取る。しかし、その心理的効果は凄まじいものがある。そういうこともシナリオの中にあるのではないかと思います。

### 3) トランプ大統領がした遺産によって、聖書預言の成就が近づいた

トランプ大統領が成したことの中に、いくつか凄いことがあるんです。  
それは、歴代アメリカ大統領がどうにも実現出来なかったこと。中東和平。  
トランプ大統領はイスラエルとアラブ首長国連邦・イスラエルとバーレーン・イスラエルとスーダン、3つの国との和平条約の提携を結びました。

そして昨日かな今日かな、イスラエルの首相がサウジアラビアを訪問してるでしょ。  
サウジアラビアがイスラエルと正式に国交樹立したら、親亀こけたら皆こけた、ドミノが起こる可能性がありますよ。これハッキリ言って、ノーベル平和賞3個分くらいの値打ちあると思います。  
だけど、アメリカでこれを報道しない。評価しない。  
これが、聖書預言に非常に大きな関係を及ぼしているということなんですね。

今から聖書預言を紹介しますが、聖書は“右のほつぺた叩かれたら、左のほつぺた出しなさい”みたいに道徳について、しかも実行できないような教えが書いてある本だという誤解があります。

そうじゃない。聖書は人間を創造した作者/創造主の言葉・神の言葉なんです。

そして神は、これから人類がどの方向に向かって進んで行くのかを、あらかじめ預言という形で紹介してるんです。つまり、人類歴史は聖書のシナリオのとおりに進んで行く。

人類歴史はどこに向かっていているのか、前もって語っているのが聖書です。

どこに向かっていているのか？やがて人類は7年間の特別な時代に入ります。これが患難時代で、人類史上最も苦しい、未曾有の苦しみの期間ですが、その期間に入る前にいくつかの大事件が起こります。

大事件の1つ。やがてロシアがいくつかの同盟国を率いて、ユダヤ人が造った国イスラエルに侵略戦争をする。しかし、彼らはイスラエル領に入った時、一日にして全滅する。

全滅の様子を見た世界中の人々は、聖書に書いてあるとおりのことが起こったということで、聖書の神に立ち返り、創造主を信じる人々がたくさん起こされる。

どこに書いてあるのか？旧約聖書のエゼキエル書。エゼキエルは人の名前です。

エルは神。エゼクは強める。神に強められた人エゼキエル。

彼は2600年前に、創造主から言葉を与えられて書き記しました。それがエゼキエル書です。

日本で1番古い本は古事記で1300年前。その2倍。日本はまだ国がなく文字もない。

そんな大昔に、これから世界がどうなって行くのかという終末預言が書かれたのです。

## エゼキエル 38 章

### 1. 次のような主のことばが私にあった。

主は創造主。人間の作者。この世界の第一原因者で、言葉で人間に語りかけ、人格を持っている。言葉を使うのは人格ある者の特徴です。

### 2. 「人の子よ。メシェクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

メシェクはモスクワの語源。トバルはシベリア地方の中心都市トボリスク。マゴグの地のゴグはロシア。

ロシアである理由①：ロシアは、ウラル山脈から西側はヨーロッパロシア、東側はシベリアです。

モスクワを中心とするヨーロッパロシアとウラル山脈を越えたシベリア全部、この2つを1つに束ねている国はロシアです。

理由②15. おまえは北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。

ゴグという国はイスラエルから見て北の果て。

イスラエルは世界3大大陸、アジア大陸・アフリカ大陸・ヨーロッパ大陸の結び目・結節点です。

イスラエルの中心エルサレムから北極点に向かって、真っすぐ矢印を伸ばすとモスクワの上を通ります。

イスラエルの首都エルサレムの真ん中から1番北の方向にある国はゴグ。モスクワが首都の現ロシア。

ロシアがイランを伴って、イスラエルに攻め込んで来る。

これが実現するには、少なくとも3つのことが歴史上実現していないと駄目なんです。

### 1) イスラエルという国が存在していること。

8. 多くの日が過ぎて、おまえ（ゴグ/ロシア）は徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入

する。そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。

久しく廃墟であったイスラエルの山々に、色んな国々から集められた者たち（ユダヤ人たち）が国を造る。家は人が住まないとすぐ廃屋になります。山も国立公園・国定公園と色々あるけど、人の手が入らない山はすぐに乱れる。荒れる。人間が手入れすることで、園や畑になったり住みやすい所になるんです。

ユダヤ人は 1900 年前、イスラエルに住んでました。と時の世界帝国ローマの植民地でしたが、その圧政に耐えかねて反抗し、独立戦争をします。それがユダヤ戦争。AD66 年から始まりました。

ユダヤ人がローマに挑戦した時、初め世界中の人々は気が狂ったんじゃないかと。

ローマはめっちゃくちゃ戦争が強い。イスラエルは今でも四国の大きさくらい。

当時はユーフラテス川から今のスペインまで、全部ローマですよ。蟻が象にケンカ売するようなもんです。

AD70 年まで踏ん張ったけど、最終的にユダヤ人はローマによって滅ぼされ、わずか 10 万人くらいしか生き残らなかった。殆ど殺されて行くんです。正確には 9 万 7 千人のユダヤ人が、世界中に奴隷として売り飛ばされ、散らされて行きました。それが AD70 年。世界中に売り飛ばされ、それぞれの国の中で、よそ者として生きることを強いられたのがユダヤ民族です。

よそ者が外国でちゃんと生きて行こうと思ったら、どうしたらいいでしょう？

その国にとって、無くてはならない人材になることですね。「アンタ外国人やけど、アンタおった方が助かるから」と、有能な人間にならないと駄目。ユダヤ人はすごく努力しました。

だから、色んな国でドクターや弁護士になったりして活躍しますが、成功し過ぎると睨まれるんです。

よそ者が成功し過ぎると、「我々の国を乗っ取るんじゃないか？」ということ追いつかれる。

追いつかれたら、追いついた国は必ず凋落して行きます。不思議なことに。

そして、ユダヤ人を受け入れた国は不思議なことに繁栄する。これは聖書の原則なんです。

“ユダヤ人を祝福する者は祝福され、呪う者は呪われる。”

この歴史原則が 2 千年間、いや、その前から続いています。

ユダヤ人は世界中に散らされた。どれくらい？久しく。久しくってどれくらい？約 1900 年間。

長ーい間世界中に散らされたら、普通はどんな民族でも同化するでしょう。自分のアイデンティティーを保持することは出来ないはずですよ。ところがユダヤ人は、1900 年の間ユダヤ人であり続けたんです。

多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。

イスラエルは 1948 年 5 月 14 日、国連の承認の下、独立宣言を果たしました。

イスラエルという国が存在していない限り、イスラエルにロシアが攻め込むという預言は実現しない。しかし、20 世紀半ばにその国が出現したのです。

歴史学者 アーノルド・J・トインビーは「20 世紀最大の奇跡だ」と言いました。

2) 8. その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。

安らかに住んでいるとは、自分の国の安全保障に自信を持っているということです。

イスラエルは建国以来ずっと、戦争ばかりやって来ました。それは、アラブの国々がイスラエルの存在を認めないと言っていたからです。



特に最も象徴的なのが1967年の第三次中東戦争。6日（むいか）戦争とされています。

アラブとイスラエルが戦争して6日でケリが付いたから。たった6日で。

創世記を見ると、神は6日で世界を造って7日目休んだ。それに引っ掛けて、イスラエルは6日間戦争で働いて7日目は安心した。なぜ安心したのか？6日戦争の結果、エルサレムを取り戻したんです。

エルサレムは世界3大宗教の聖地とされています。

A) まずユダヤ教。アブラハムがイサクを献げたのはエルサレム。エルサレムが世界の中心。

B) そしてキリスト教。イエス・キリストが十字架にかかったのはエルサレム。イエス・キリストが死んで3日目によみがえった場所はエルサレム。イエス・キリストが再臨で下りて来るのはエルサレムのオリーブ山。歴史の中心エルサレム。

C) 最後にイスラム教。モハンマドは白い馬に乗って、聖なる都の上から天に上って行ったという伝承があります。聖なる都がエルサレムとは書いてないけど、エルサレムだと解釈されている。

このエルサレムを、ユダヤ人がたった6日間で取り戻したんですね。

その結果、屈辱を感じたアラブ21カ国はハルツームに集まって、アラブ連盟総会議を開き、有名な宣言をしました。これを“3つのNO（ノー）”と言います。

①イスラエルを承認しない。②イスラエルと和平を結ばない。③イスラエルとは交渉もしない。

存在そのものを認めない。存在を認めるような交渉をしない。滅びるまで戦う。

これが1967年。21の国が誓ったんです。

ところがトランプ大統領。アラブ首長国連邦・バーレーン・スーダンとイスラエルが和平条約を結びました。それ以外に、既にエジプトとヨルダンが和平条約を結んでいます。

エジプトはアラブ世界で1番人口が多く、軍事力がずぶ抜けている。

1番お金を持っているのはサウジアラビアですが、昨日今日、ネタニヤフ首相がサウジアラビアに行ったから、これはもう時間の問題ですよ。これを仲介したというのはすごいことなんです。

このように、エジプト・ヨルダンとは既に和平を結んでいて、サウジアラビア・アラブ首長国連邦・バーレーン・アフリカのスーダンという、イスラエルの周りのアラブの国々と和平を結ぶことによって、イスラエルはますます安らかに住んでいることが出来ます。

あの“3つのノー”、どこ行ったん？もう、どっか行った。

これはもうドミノですよ。いよいよ和平の流れに弾みが付くと思います。

### 3) イランがロシアの同盟国になっていること

5. ペルシアとクシュとプテも彼ら（ゴグ/ロシア）とともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。

ロシアの同盟国の筆頭に挙げられているのがペルシア。ペルシアはイランです。

イラン人はペルシア語を話し、その先祖はアケメネス朝ペルシア。イランの目の前の海はペルシア湾。

イランの特産品はペルシア絨毯。イランの猫はペルシア猫。イランなんです。

イランがロシアと一緒にあってイスラエルに攻め込んで来る…。歴史的には元々イランは親イスラエルの国でした。それが終末時代になると、イランはイスラエルを目の敵にしているんですね。

トランプ政権に限らず、歴代のアメリカはイランをずっと目の敵にして来ました。

アメリカがイランを警戒したのは、ひと言で言うとイデオロギー国家だからです。



かつてソ連は共産主義という思想を世界中に輸出して、東ヨーロッパや中国・朝鮮半島の北半分、色々な所に共産主義の国を次々に造り上げて、共産主義勢力圏の中の盟主として自分を置いたわけですね。

それと同じように、イランはイラン・イスラム革命をやったんです。ホメイニー（1902-1989）が出て来てパーレビ国王を追放し、イランのシーア派イスラム教の經典にのっとって、そのとおりに国を動かして行く。そのために世俗的な王様は廃止。

そうしてイスラム革命を中東全部に広げ、その盟主に自分たちが就こうとしているイデオロギー国家。

イランはイスラエルと離れているのに、なぜテロをやったり、ヒズボラを使ったり、色々なことをするのか？イスラム教には主流派（スンニ派/9割）と非主流派（シーア派/1割）があります。

スンニ派から見るとシーア派は異端。

こんな言葉を聞いたことがありますか？“異端は異教よりも憎し”

似ている奴の方が、似ていてちょっと違う方が余計に憎い。京都王将と大阪王将。若花田と貴花田みたいな。そんな言うたらあきませんね。もう言うてしもた。

ちょっと似てる。ので正統派争い。どちらが元祖？どちらが本家？どちらが真っ当なの？

シーア派イスラームは、今まで散々スンニ派にやられて来ました。

しかし、イラン国内では殆どがシーア派。スンニ派は殆どいない。

イスラム教徒の殆どがスンニ派イスラームで、特にアラブの国々では殆どがスンニ派です。

そのスンニ派アラブの国々が“3つのノー”を撤回している。イスラムの教理では存在してはならないイスラエルを承認して、和平を結んで、交渉してオーケーって、なんたる妥協！

それで、少数派であるシーア派イランがイスラエルに対してエルサレム奪回！と、その拳を振り上げて行くのは、それぞれの国の一般民衆は「イランすごいな。」「イランの方が正当的だな。」「イランの方が言っていることまともだよな。少なくともスジ通ってるわ。」

イランの問題は収まりません。イランは今、シリアにたくさん基地を持っています。シリアもシーア派の垂流です。イランはすぐ隣のイラクにシーア派政権を作り、その隣のシリアにシーア派の基地を作り、その南のレバノンにはイスラム原理主義のテロ組織ヒズボラがいて、これもシーア派。

それを考えると、かつてのパーレビ時代とは打って変わって、イランがイスラエルに攻め込んで行くという理由は十分あります。

サウジアラビアがなぜ一目置かれているかという、メッカとメディナを押さえているからです。

でも、イランがイスラエルに攻め込んでエルサレム占領に成功し、第3の聖地エルサレムをイランが握っているとなったら、当然勢力図がガラッと変わると思います。

だから、イスラエルとぶつかろう・ぶつかろうとするんです。

イスラエルが存在しないと、この預言は実現しない。存在してるんです。

イスラエルが周りのアラブの国々と和平を結ばないと、安らかに住むことは出来ない。トランプ政権のお陰で、それがドミノのように起こっている。イランがイスラエルに敵対心を持つ国になっていなければ、この預言は実現しない。そうなるんですよ、今。

つまり、最終的には中東の情勢はこうなると 2600 年前に書かれた状況に、今一步一步近づいているんですね。

以前もお話したことがあります。日本で 4 番目に長く続いている連載漫画の 1 つが『ゴルゴ 13 (サーティーン)』。スナイパー デューク東郷。コードネーム/ゴルゴ 13。

ゴルゴはイエスが十字架に付いた場所 ゴルゴダの丘から取って、13 日の金曜日は不吉なんだ。なんで？イエスが十字架にかかった日。ウソや！13 日の金曜日じゃない。ニサンの月の 15 日じゃないですか？あんまりマニアックなことを言っても駄目ですけど。

さいとう・たかをさんはそれ描いたんですよ。伝聞をそのままつけて。

どんな話かというと、暗殺者の実に殺伐とした話。現在単行本で 198 巻出てる。スゴイね！約 50 年以上連載していて、今まで 1 回も休載したことがない。ずっと描き続けておられる。「私の後ろに立つな。」よく出て来るんですね。ご存知ですか？知りませんね。

ゴルゴ 13 は日本の散髪屋さんに 1 番置かれている漫画です。パーマ屋さんには置いてないと思います。さいとう・たかをさんのお父さんは散髪屋さんでした。さいとうさんが中学の時の担任の先生の苗字が東郷だったんです。で、デューク東郷にしたそうです。殺し屋の名前にするんかと。

これ、実際の国際情勢を背景にした話なんですよ。だからゴルバチョフ登場するし、ベルリンの壁が崩壊した時のことも描いてあるし、金正恩 (キム・ジョンウン) も出て来るし。話のネタ尽きないと思う。実際にある世界の情勢を舞台にフィクション描くんです。

これが長く読み継がれている 1 つの理由は、時々ですが、この漫画に掲載されたストーリーが実際の世界で実現するんです。お話として描いてあるのに、半年後・1 年後にそれが実際に起こるんですよ。いつもではありません。たまに。でも、たまにでもそうなる。なぜそんな不思議なことがあるのか？

この漫画で育った少年たちが、やがて商社マンになったり、マスコミの特派員になって、世界中の色々な所に行く。そして、現地で耳よりの情報を聞くけど裏が取れない。でも、本当だったら特ダネ。裏が取れない限り新聞には載せられない。だけど、このまま葬り去るのはモッタイナイ。ので、さいとう先生に言おう！その情報を基に描くので、当たっている場合があるんです。だから、ゴルゴ 13 で国際情勢を学ぼうという人がいる。代表が麻生太郎 (あそう たろう) さん。副総理。ある大学では国際入門として使っているんですよ。大丈夫か、日本は？

極たまにであっても、それが実現する可能性がある。だから読んでみようかなということがあるなら、書かれてあることが 100% 全部実現する本があるとしたら、手に取って読んでみたいと思いませんか？

ゴルゴ 13 が時々の中するのはインサイダー情報をもっているからです。現地に行っている人の取材の情報を聞いているので時々当たる。

ということは、100% 実現する預言の本があるなら、それを書かせた方は究極のインサイダー情報というか、これから何があるかということを既に上から見ている。

だから、それを的確に書き残すことが出来るということになるのです。

聖書が“このようなことが起こる”と前もって語っているのは、それが起こって行くのを見ることによ

